

第4回香美市立美良布保育園建設検討委員会  
会議録要旨

【開催日時】令和3年2月24日(水) 18時30分～20時05分

【開催場所】香美市役所本庁舎 3階会議室

【出席者】浜田委員長、信崎副委員長、五百藏委員、井本委員、江西委員、岡本委員、  
小松委員、式地委員、杉本委員、中山委員、森田委員 11名

【欠席者】井村委員、前田委員 2名

【事務局】時久教育長、秋月教育次長、公文課長、小松班長、坂本主幹（教育振興課）  
門脇技幹（生涯学習課）

【傍聴者】8名

【要 旨】

1 開 会

事務局より開会宣言

2 あいさつ

教育長よりあいさつ

3 議事

(1)建設位置の比較案について

委員長

前回の会議で全員の方からA3の資料2-1の事について議論をいただきました。前回全員出席でしたので、皆さんひとりひとりからの意見をいただきました。その際に位置決めのことについて、現在地に建てるかそれとも別の場所に建てるかという事の議決も取れたんですけど、もう一度よく考えた上で議決しましょう、という事になっておりました。それで、改めて今日ひとりひとりから意見をいただいて最終決定をしていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。そしたら順番をお願いします。

委員

改めて、香北の自然公園の所に上がって町全体を眺めてみました。本来なら大川上美良布神社とかアンパンマンミュージアムに近い所といったような自然環境や、子どもが多様な文化や人々に触れ合う事ができるような環境が一番望ましいかなとは思ったん

ですが、改めて空き地を見てみるとなかなかその土地が見つからないというのが正直な所かなと思います。小学校や中学校の近くはどうか？と近くを見てみたんですが、ここも高圧線が通ってたり道が狭かったり起伏や高低差が大きかったりで、ちょっと厳しいかなと。選択肢の中から考えていくと、本来ならゆったりとした広い所に建てるのが望ましいでしょうけど、現行案で予算の事も鑑<sup>かん</sup>みてみるとD案（現駐車場と現園舎の土地を合わせて新園舎の土地にする）しかないのかなと。何より、交通の便や子どもや保護者の安全と同時に通い入れた施設であるという事と、危機管理からいうと支所も近いという事も踏まえて、やはりここが最適と判断せざるを得ないという気持ちになっています。以上です。

#### 委員

前回もお話しましたが、新しい敷地を見つけるのはなかなか難しい問題があります。行ってみないとわからないことは結構あったりするので、ずっと使っている場所というのは風の通りとか周辺環境の事を熟知できている事などを考えて同じ場所がいいのではないかと。それから、皆様が平屋が良いというのもよくわかりますけども、それを考えるとまず今の敷地がいいだろうという所から考えて、ちょっとでも敷地が広く取れて平屋の部分も多く取れそうなD案に魅力を感じます。それからさきほどおっしゃっていましたが、私が一番感じるのは、南海トラフとか地震があった時に、小さな子どもたちを保育士さんたちがこの人数を抱えて走れるだろうかという事を考えると、近くに支所があると大人がたくさんおられますので助けていただけると思うので、新しい所よりも今の所の方がいいだろうなと思います。それから、車での送迎が多いと聞いておりましたので、やはり交通の便を考えても通い入れた所であるという事も非常に大事だと思いますので、私としてはD案がいいなという風に思っております。

#### 委員

この間帰って、奥さんや子どもに話してみても、場所が無くてこの案の中ならD案がいいかなと。前回の委員会では自分も平屋がいいと言ってたんですけど、子どもに話したら『2階がある方がいい。おもしろいやん。ボルダリングで上がれたらすごい』と。子どもからしたら2階建ては魅力的なのかなと思ったり、一部2階建てとかそういうのもありかなと思います。D案は駐車場から保育園に入るのに、どうしても道路を通らないかんですよ。現状も駐車場から保育園に行くまでに車道を通して玄関に入らないかんですよ。その時にやはりすごい気を遣う。車に乗ってる方が気を遣う。送迎している親子の近くを通るのは結構怖いんですよ。そういうのが改善されたらいいなと思います。一時停止をつけたりしたら少しはマシになるのかなと思います。以上です。

#### 委員

4案あって、この中で選ぶとしたらD案しかないのかなと思ったりもするんですが、やはり2階建て園舎というのは気にする所が大きいです。一部2階建てという風にも書

いてありますので、考える余地はあるのかなと思うんですけど、今の状況をいうと保育園から小学校も中学校も近くてというのが立地条件としてはものすごく良いです。小学校との交流もそうですし、中学校の方も家庭科などの授業での交流もありますので、位置的にはそこがいいんですけど、気になるのは2階建て園舎っていう所です。D案だったら仮園舎をどこかに建てるという事になりますので、期間としては1年1か月の長い期間を仮園舎で過ごすという事になれば、仮園舎が2階建てというのもちょっと無理なんじゃないかなと思ったりもします。そこも含めて考えていただけたらありがたいと思います。

#### 委員

前回いろいろと言わせてもらったんですけど、あの後支所長と地域の事を話す中で、やはり土地が無いという事が熟知できました。C案だったら子育て支援センターも新しくなりそうなのですが、今の支援センターの施設もまだまだ利用できるという事で、A案B案D案にしてもそのままという事ですね。前回リフォームも考えてもらったら？と言ってくれた事で、空調とか直さないかん所はあるという事を今職員とも話している所です。新園舎はやはりこれ以上工期が遅れる事はいかんと思うので、この中だとD案がいいかなとは思いますが、園長先生が言われた通り仮園舎の事もしっかり考えていかないと改めて思いました。子どもは確かに2階建ては楽しくてワクワクするかもしれませんが、できたら平屋の方がいいかなと思っています。

#### 委員

大宮小学校としては、今の保育園と小学校の距離はちょっと遠いかなと感じている所です。少しでも近くて子どもたちが小学校や保育園で交流する機会をとっておりました。最初は学校の近くで新しい土地に建てるという事を願っておりましたが、いろんな状況を考えて物理的にも難しいという事ですので、皆さん言われておりますけれども、この中だとD案で少しでも1階部分の面積が広い状態で造っていくのかなという風に思っております。中身の事についてはいろんな案があると思っておりますので、子どもたちが探究心をもってワクワクするような園にするっていうのは中身の部分で応用ができるのかなと思っております。以上です。

#### 委員

理想的にはC案ですけども、現実にはD案だと思います。また、子育て支援センターのほうの意見も言わせていただきましたけども、例えばエアコンの今現在の使用年数が8年とすると、新園舎が建つ頃には10年11年となる。機械ものは10年経つと段々壊れていくという事も視野に入れて、新園舎が出来るまでにリフォーム等を検討していただきたい。市役所の方も簡単にはリフォームしましょうとは言えないでしょうけど、言わないとしてくれませんか。どんどん意見として提案をしたらいいと思います。以上です。

## 委員

D案の賛成が非常に多い様に固まりましたけども、私も結論から言うとそれによろしいかなと。理由も同様の理由でございます。D案を取った場合の問題点というのも今お聞きしました。しかし、どうしても2階部分を造らなきゃいけないとなった場合に、安全確保対策それから仮に平屋になったとしても、先生方や保護者の目が通らない死角が絶対出てくる訳で、前回も申しあげましたICTを利用した死角を作らないような工夫というのはできるであろうという風に思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。小学校との関係においても、オーストラリアとはインターネットを介して対話ができるわけですから、そうだとすると香北町の中において、どうしても近くっていう風には私は考えない。オーストラリアとの間で成り立つのであれば、もっと近くの所の活用っていうのは考えなきゃいけないし、むしろ非常に重要な事は音声や映像をリアルに見られるという事に対する驚きを子どもたちに伝える。これが非常に重要な事だと思うんです。言語がどうのこうのっていう話もあるんだけど、それ以上に『どうしてこんな事ができるんだろう』と探究心を追うものというのであれば、私はそこがかなり重要な所でこれが抜けてる。ありえない話。ものすごい遠い所との間の音声や映像による会話が成り立つということに対する不思議さ。これはその興味の根幹として本当はもっと衝撃を受けて子どもたちに伝えられるべき事だろうと思います。仮に2階建てになったとしても乗り越えられるような方策というのを考えていくべきだろうと思います。結論から言うとD案です。以上です。

## 委員

私もD案です。安全性や利便性、それから予算の事も大事だと思うんですね。そういう所も考えますと、やっぱりD案かなと思いました。先生方からの2階建てがあまりよろしくないというご意見もちろんありますけれども、この資料の新園舎の床面積は2階を設定した広さなんですかね。どうしても2階が必要であれば、2階部分の活用の仕方ですとか、そういう事を考えていけば改善できる部分というものはあるんじゃないかなという風に考えます。あと、気になったのは周辺住民の方がどうかな、というのは気になります。以上です。

## 委員

私もD案が一番いいかなと思いました。土地や予算の問題とか様々<sup>かんが</sup>鑑みまして、この中ではD案が現実的で一番広く、安心した園舎が建てられるんじゃないかなと思った所です。2階の部分とかいろいろご意見があった所はこれから詰めて具体的にどうできるかというようなことになるのかなと思いました。それから先ほどお話をされた保小中の距離っていうところも幼児期は直接的な体験というのがすごく重要視されているので、驚きと言われた部分もとても大事な部分でもありますが、一方ではやはり直接的に関わり合う事で学んでいくという幼児期ならではの学びの在り方もあるかと思うので、同じ町内だからこそ人と人が直接的に触れ合って学んでいくところも大事に

はしていただきたいなと思って、少しでもその距離が短くなったらいいなと思いがら、1回目から参加をしていたんですけども、実際的にはD案で今の距離を確保しつつ工夫していくのが一番なのかなと思いました。以上です。

## 委員長

ありがとうございました。私をのけた全員の方が今の場所。私も現在地に建てる方向がいいんじゃないかという事で、皆さんと同じD案でという事を考えております。今日、傍聴の方もおられますので、この資料2-1のA3用紙の分についてですけど、建設費概算など数字がのってます。この事については一定の目安であって、数字が勝手にひとり歩きしないようにしていただきたい。費用がこれくらいかかるんじゃないかというものであって、はっきりした数字ではありませんので、そのことはくれぐれもよろしくお願いします。それから、C案についても現状では当初、小学校の近くにという事で、車で通っているいろいろ見たりしたんですけど、なかなか無い。もしC案であれば、現状土地は不明なので、こういう単純な形にしております。購入する土地の形状とか面積とかで変わってきますので、ここにいる委員さんは議論してわかっておりますけど、その辺は見られた時にこういう形がいいんじゃないかと言われたら困りますので。面積も3,919㎡以上という事になってますけど、これは国が示されている面積(園舎や園庭)で、最低これくらいの広さがあるよね、という数字ですので、その辺のご理解をよろしくお願いします。それでは、皆さんの意見をお聞きした所、実際に現地も回って見ていただいて近所の方や家族の方と意見を交換されたことだと思います。今日は13名中11名出席で、欠席されてる2名の方からは委任状をいただいております。2名ともD案という形を取られてますので、今日の出席者含めてこの検討委員会の委員全員の方がD案を押ししたという事で位置決めは現在地に建てるという事に決める。それから、予定では令和8年度開園ですけども、できるだけ前へ前へ進んでいくという方向でいきたいなと思っております。そしたら、今の所に建てるという事でよろしくお願いします。それからお二人の委員さんが言われています、映像とか2階建ての部分や安全性などについては、次の(2)建築計画・施設設計における基本方針についての中にどうたい込むかによって変わってくると思うので、また議論をいただきたい。この議論が業者さんを選ぶ時にこういう風にしてこういう建物を建ててくださいというプロポーザルを出してもらった基本的な考え方になるので、この辺の議論をいただきたいのでよろしくお願いします。それではこれについて事務局から説明をお願いします。

### (2)建築計画・施設設計における基本方針について

事務局より説明

## 委員

まずは(3)のヒヤリハットの所なんですけど、このままの文章でいってしまうと、ヒヤリハットをどう作るかみたいな施設設計になってしまいます。ヒヤリハットは大事

なんですけど、それで何が育まれるかという所を文章の中に落とし込んで目指すべき施設像を言い表した方がいいんじゃないかなと思いました。例えばですけど、さきほど事務局の方から説明をしていただいたように、ヒヤリハット体験を豊かに積み重ねるっていうことで危険を予測したり回避したりする力を育んでいきたいという所がメインですので、そういった所を文章の中に書き表したらどうかなと思います。【子どもたちがヒヤリハット体験を豊かに積み重ねる事で危険を予測回避できる力を育む施設とします。】というように、何を育もうとしているのかというところを明記した方が本来の趣旨に合うのではないかなと思いました。それから、(2)の異年齢のところだと、事務局からも説明ありました遊びの減少であるとか子どもたちが異年齢で触れ合う事で育つ側面も言っていたんですけど、本当に今の子どもたちは door to door の世界が結構あって、今道路交通法の改正もあって幼児が一人で登園降園ができないんですよ。必ず保護者の方がついて園まで行くということもあって働いている親御さんの職場までの距離もあって車で送迎する率が一昔前と比べると圧倒的に多くなっていると思います。子どもたちが地域を探索しながら園まで行っているかというところではなくて、駐車場に着いてから少し歩いて門まで行くというように、実際には子どもたちが地域に帰って異年齢で関わり合うということは少なくなっている。実際にどこで異年齢の交流が確保されているかというところ保育園の中です。という子どもたちも多いんじゃないかなと思うので、群れて遊ぶそこで育つ力の大きさという事がよく言われています。年長さんは年少さんを見ながらルールを変えて小さい子たちも入ってどうのように遊ぶと楽しめるかという事を考えて配慮をしながら遊ぶとか。小さい子たちはお兄ちゃんお姉ちゃんを見て、あんなお兄ちゃんお姉ちゃんになりたいと憧れの姿に出会ったりとかいろんな遊び方や知恵を学んでいくという単一学級では育たない力が、異年齢の中では随分育つという事も言われています。保育所なので厚生労働省の管轄にはなりますけども、文部科学省の教育部門を担っているほうにおいても、一昔前は単一学級というところを重点的に言っていたんですけど、最近は複数の学年で遊ぶ事の重要性も随分言っているんで、以前園の方から言われていた異年齢ということもすごく大事なかなと思います。すみません、長くなりましたが以上です。

## 委員

私も子供がいますが、保育園の時代というのは随分昔の話でございまして、現状がどうなのか理解しているわけではないんですけど、この話は建築計画・施設設計における基本方針についての話で、異年齢における交流というのはこういう事ではなくてソフトウェアに関わる話じゃないのかなと思います。香北町の中においては例えば夏の時期になれば川に出て異年齢の人たちと遊ぶというのは今でもあるわけですし、それから祭りの時に異年齢の子どもたちが夜集まって交流の場がある。或いは、おなげれなんかにおいて行進する時に交流がある。都会と違って交流の場っていうのはやはり長い文化の中で育まれてきたものがあるんですね。実は私は複式学級で3年まで一緒に勉強をしたわけですけども、学校の中で異年齢の方と交流したように、学校を離れた遊びの中で異年齢と交流があった。そして、異年齢の交流の中で今先生がおっしゃったようにヒヤリハット経験を豊かに積み重ねられる施設というのはどうもピンとこない。な

んか危険に満ちたスリリングな施設を造れ、みたいに読めなくもないわけです。そうではなくて、園を出て遊びの中で異年齢の子どもたちが接触すればヒヤリハットは可能なわけで、その中で経験ができると思います。そして街並みを見ていただいたらわかるんですが、シャッター商店街ですよ。通ってる最中で神社を掃除しているおじいちゃんやおばあちゃんがいたり、お店のほとんどがシャッターが閉められているという現況をたとえ車で通ってでも知ることはとっても重要だと思いますね。この現状そのものを放っておいていいんでしょうか、という事ですね。長くなりすぎて恐縮なのですが、人はひとりでは生きられないわけで、家庭を持ちます。子どもに恵まれることもあります。そして地域の中で人間関係が形成される。それでだめなら行政の力をお借りしながら生活をするわけなんですけども、たとえばAさんという子どもが非常に頭が良くて県外に行っちゃった時に、親御さんが地域に残っている。で、その親御さんは地域に残った学友たちが面倒みるわけですよ。ところが、面倒をみてるという事に対して心が痛まないというか、自分は都会へ行ったんだからこの町の事とか関係ないというような意識構造の人たちが育つと困るわけです。やっぱりこんなシャッター商店街のところだとお父さんやお母さんおじいちゃんおばあちゃんを誰が面倒みるんだらうねという心の痛みというものが実は必要でして、車で通ったとしても<sup>さんたん</sup>惨憺たる状況を胸に焼き付けておいて、何とかしなければという気持ちを育むというのは、教育の一環としてとても大事だと私は思います。元へ戻りますが、これは建築計画・施設設計に関わる話。ソフトウェアの話は根っこの話。異年齢の交流の話も別個で考える事ができる話ではないかと。施設の話と関連する部分も無いとは言いませんけども、むしろソフトウェアの教育全体に関わる話、という風に私は思います。以上です。

## 委員長

ありがとうございます。確かに施設はハード中心に設計されるわけですけど、そこにはやっぱり普通の家もそうなんですけど、施主さんのこういう家を建ててくれませんかといった時には基本的にソフトな部分が非常に大事になってくるのではないかなと思うので、それも含めた形で皆さんに意見を頂いてたら、今度仕様をする時に単純に死角とか家のプロが見てでしかわからんような形ではなくて、素人でもここはどうなっちゃったろうというように少しでも指摘ができるような仕様書にしていきたいなと思いますので、ぜひいろんな意見を言っていただければ大変ありがたいです。

## 委員

言い逃したことがありまして。この基本方針はよく考えてお作りいただいたと思うわけですが、ひとつ気がかりな点がありまして、国際バカロレア教育への橋渡しと書いてあるわけですが、本年度の学習指導要領によれば、外国語(英語)等の教育をするという事、それからプログラミング教育をするという事、2019年から道徳教育をするということが示されている。これが皆さんにほとんど周知徹底がされずに、国際バカロレア教育については不安を感じます。全体として非常に意義のある文章で書かれていて、内容について難しい思考に巡らさなくてもいいような文章になってはいると思うんだけど

ども、国際バカロレアという事についてはどこまで共通理解があるのかよくわからないので、それが大宮小学校や香北中学校と連携した教育への橋渡しという風にしたほうがもっと平易でいいのではないだろうか。国際バカロレアという事になると学習指導要領との関係はどうなるんですかという議論をよぶ可能性がある。国の教育上の準則である学習指導要領の話が飛んじゃってね、国際バカロレアっていう話に行くよりは、皆さんがわかったって思いにくい言葉を省く、或いは今後の議論に委ねたほうが私はい良いと思います。施設の話ですからね。以上です。

## 事務局

ここの一行につきましては、こういう風に表現したらいいのか、もっと大きく探究的なという書き方でいいのかと話をしていたところです。その辺も含めてこの検討委員会のほうではご意見を頂きましょうという事で、一番最初からこのように示してあったので今回もそのままにしているというところではあります。それで、いわゆる子どもたちが探究心をいっぱい持って育っていくという、保育園の子どもたちが日常生活の中や遊びの中でいろいろ気がついたり人に関心を持ったり、誰かの言葉でちょっと気になったりという様な事を自分なりにどんどん試したりしながら遊んでいって、その中でうまくいったりいかなかったり友達の声掛けで急に世界が広がったりして、そういうのがたくさんある園にしていきたいという事です。小学校や中学校は国際バカロレア教育ということで、今積み上げていっている所なので、そこも一年生を受けていく子どもたちが入ってからいろんな事を試していくんじゃなくて、小さい頃からそれぞれの年齢で興味関心があることをいろいろチャレンジしてきてほしいなというのもあって書きました。他の保育園から小中学校へっていう香美市の場合も、同じようにいっぱい試しもして遊びの中でいろんなものを蓄えて小学校に入ってきてもらいたいというのがあるんですけども、バカロレアの教育を目指しているこの地域にとったらこの言葉をそのまま書いておいたほうがもっとはっきりするかなというわけで書いたというようなことです。また、ご意見を下さったらと思います。

## 委員

おそらく、その自己探求心を持った教育ということについては、例えば土佐山田町の小中学校においてはそれは排除するんだよという事ではないと思うんですよね。そういう意味ではもっと広い概念のもとで本質性の高い言葉を使ったほうが、なぜ大宮小学校や香北中学校だけについてという話になってしまうわけです。おそらく今日来られている議員さんにおいても国際バカロレアを明快に答えられる人はあまりいないんじゃないかなと。答えられるかもしれませんよ。私の先入観でそう言ってるだけで。もっと本質性の高い、例えば自己探求心を育む教育である、とか。土佐山田町へもっていっても通用するような広い概念を使うべきであって、大宮小学校と香北中学校だけにターゲットを絞ったような概念では使うべきではない。ここを入れる意味がいまひとつ。これ自体議論になってしまうので、議論の対象としないほうが僕はいいいと思うんです。

## 委員長

それでは関係する団体、受け入れる方の大宮小学校の校長先生と送る方の美良布保育園の園長先生、お二人に意見を求めたいと思います。そしたら、校長先生からお願いします。

## 委員

バカロレアって何？と皆さん思われると思うんですが、イメージするものが100人いれば100人違うような感じもあると思います。バカロレアが大事にしているものって、子供たちの様子を見たりとか、考え方っていう事はなかなか口では説明もできませんし、授業も見ただけだと思うんですけど、これがバカロレアの教育だと言われてもそれはなかなか難しいところがあります。でも、バカロレアが何を大事にしているのかっていうこととか、子どもの主体性エージェンシーを大事にしているとか組み立てという筋の部分<sup>オビ</sup>は、誰でも理解をしていただける部分ではないかなという風に思っております。今の大宮小学校と香北中学校では、資料2のCS香北学校運営協議会というのがありまして、ここの中でIBバカロレアの教育について、学校だけではなくてPTAとか地域の方々にも入っていただいて議論をしています。その中身が、地域でバカロレア教育というものを盛り上げていこうという動きが起こりつつあります。IB自体も周りの大人たちが同じ考えで子どもを育てていきましょう、という事が子どものためにはメリットです、ということで学校だけではだめです。というようなことは云われております。ただ、たえずバカロレアの考えとかそういったものを発信しながら保護者や地域の方にも理解をしていただきながら取り組みを進めていくことで、香北地域のバカロレアっていうものが子どもたち自身も自信になったりとか、IBの学びはこうだということを発信したりとかそういった内面の部分のプラスに働く部分が多いのかなと思っています。だから、学校としてはもちろん探究心というのもぴったり当てはまる言葉ではあるんですけども、あえてバカロレアって言葉を出してそれを基にというのは大変ありがたいかなと思っております。委員の中のお一人の方にも学校運営協議会に携わっていただいておりまして、バカロレアが何かっていうのをすごく感じておられますので、ひょっと外部の方から見たバカロレアの学校教育について感想を聞かせていただけたらと思っております。

## 委員

うまく言えるかはわかりませんが、何か月かに一回開催されるバカロレアのCS香北学校運営協議会に何回も参加してありますが、行く度に前の事を忘れていくわけです。忘れていてバカロレアって何？って常に入っていたんですけど、長らくお話を聞いてまして私なりに理解した事は、探究心を養うことかなという風に自分の中では感じ取りました。いま5年生が六次産業とは何か？という授業をやっています。蕪生野でかかんを作っているんですけど、地元のものを使ってそういう風に六次産業で新しい商品を作っているんだよ。という事を子どもたちの前で1時間くらいプレゼンさせてい

ただいたんですけど、子どもたちからどんどん質問が出てくるわけです。『これどうして？どうやっちゃうが？』と。そういう《知りたい》が探究心じゃないかなと思ってます。バカロレアと探究心はひつつかんと思うんですけど、私もよく聞いていたらいろんな事がグローバルな世界に徐々に近づいていくんですよ。探求心というのは保育園の子どもが一番持っていると思うんですね。それを徐々に磨き上げていくのが小学校であり中学校でありっていう風に、そして世界に目を向けていくというような事なのかなと理解をしているところです。参考になったかどうかわかりませんが、以上です。

## 委員

私は美良布保育園へ赴任してから5年目です。園長としては4年目なんですけど、CSの会にも参加させていただいて、国際バカロレアっていう言葉になかなか慣れずです。私は会合に参加しますが、職員は会合には出てませんので、こういう文字にして見る部分は大きいんですけど、それを皆が理解できるかっていうとちょっと？な部分もあります。字としてのとそうなんですけど、私たちが保育で大事にしてきたことは子どもの気づきの部分です。結局それが探究心だと思うんですけど、気づいて考えてやってみる、それをすごく大事にしてきたので、それを小学校に繋げていくという部分では同じかなと思います。おっしゃる通りこういう字が出てくると、これを保育園もやっていくのかという風に思われるというのは私もわかりますけど、CSの会に出ながら地域の方と一緒に話をする中で見ていると保育園も地域の方々に助けをいただきながらやっています。園から発信するというよりか、地域の方に助けをいただいているというところの方が大きいので、それを一緒に探究心を育てるという事であれば、繋げていけるものではないかなと思っています。

## 委員

私の身内に海外で生活している人間がおります。その事もあって申し上げてるわけですが、学習指導要領の中に外国語を学びなさいとかプログラミングを学びなさいとか道徳教育を入れたっていうのは私は非常に重要なことだと思ってるんです。身内の人間は海外にいてですね、地域の人たちが自分の父母やコミュニティの人たちを支えてくれてるんだという有難さをあまり感じていない。口を開くと日本批判してると。つまり外国に出て行けばその人たちは本当に地域を支える人として動いてくれるとは私は思わないんです。そういう意味では人や地域の繋がりというようなことを道徳教育を通して教えておかないと、俺は海外に出たからお前たちとは次元が違うんだという物の見方をされると困る。そもそも今の時代において国際人というのがいるかどうか。アメリカの中においてはあれだけ人種差別があるじゃないですか。日本人だって国際社会に出た時にすごい人種差別を受けますよ。それを抜きにして国際という言葉の中でいろんな事を語るのは僕は非常に危険だと思います。国際人なんかいませんよ。激しい人種差別があるからこそ、テニスの選手だってああいう告発をしなければいけないじゃないですか。そもそも教育政策って時によって変わってくる。例えば、ゆとり教育なんて話が一時もてはやされたんですけど、いかななものかっていう風に振り返るって

こともあるじゃないですか。それを国際バカロレアの認定機関の認定を受けたというところにこだわっていくのはちょっと違うんじゃないですか。言葉から平易にわかるイメージを皆さんがわかってくみ取れるような文字を使うべきであって、首をかしげるような文字ではなくわかりやすい文字を使うべきだという風に思います。

#### 委員長

はい。このことは大変大事な事なんですけど、バカロレアの探究心などは子どもたちの成長の中でいろいろ繋がっていくと思いますが、道徳・郷土愛という言葉がバカロレアを含めてですけども、この場で議論をしていくというのはなかなか難しい。園舎が建ったとして、安全またはヒヤリハット体験を園の内外含めてどういう風に取り込むか。その中でどういう事を学び、地域等の中でよってたかって子どもを育む施設、香美市の教育理念でもある皆で育てようとする形になっているか、その場所がそういう場所になっているか。場所としては美良布の中心街の現在地という事になっているわけですけど、この議論をしたら21時過ぎるかなと。大事な事なんですけど、このことについてはまたどうするかというのは事務局と議論をさせていただきたいと思います。他の部分でなにか議論ありますか。そしたら事務局の方から。

#### 事務局

話が戻ってしまうんですけども、(3)子どもたちがヒヤリハット体験を豊かに積み重ねられる施設という所でお二人からご意見があったので、それを踏まえてヒヤリハット体験を積み重ねるといのがどういった目的があるのか、という事を入れたほうが良いという事で、例えば『子どもたちの身体能力や危険予測能力を育むためヒヤリハット体験を豊かに積み重ねられる施設とします』というのはいかがでしょうか？というのを委員の皆さんにご意見をいただけたらと思います。

#### 委員長

専門家とか現実に子どもたちを育てている園の方、それから親の立場の方から意見を聞いたほうがよろしいんじゃないかと思います。最初に専門家に聞いてしまうと、その意見になってしまうから専門家の先生には最後にお問い合わせできますか。それでは、3人の委員さんよろしくお願いします。

#### 委員

確かに目的を入れるというのは良いかなと思います。私は施設の方では0, 1歳児の子どもを見る人が多いんですけど、日々発達が見えていくというところで、小さい滑り台とかジャングルジムが部屋の中にあるんですけど、それに上がっていくとか足をかけるとかが出来たり、ちょっと転びそうになったりすることが自分の体でわかっていくっていうのを毎日のように見えています。年齢が高くなってきたらそんな体験を皆の

ものにするという役割を保育士が果たしていると思うんですけど、そういう事を入れるっていうのはよろしいかと思います。すごく簡単ですけども。

#### 委員

ヒヤリハットという言葉にちょっと嫌悪感があるんですけども、保育園としては事故報告書であつたりヒヤリハット報告書であつたりというのはあまりよろしくないものなので。言われている危険を回避することであれば、夏には木工教室という形で建設組合の方に来ていただいてのこぎりであつたりとんかちであつたりとかそういう経験もさせていただきます。危険な事を全部排除するんじゃなくて、それも大事にしながらやっていますので、ちょっとこのヒヤリハットという言葉じゃなくて何か別の言葉で書けないかなと思いました。

#### 委員

僕も子どもに対しては「危ないからこんな事するな。あれをするな。これするな。」って言うのは大嫌いで、痛い思いをして覚え。痛かったら覚えるきなんでもしろ。という感じで育ててますけど、さきほど事務局の方が言っていた文章の感じでいいんじゃないかなと思います。

#### 委員長

できるだけ、行政言葉を排除してわかりやすい言葉でよろしくお願いします。最後に専門家の意見をお願いします。

#### 委員

大きなけがを回避するのは大前提で、小さくヒヤッとしたりハッとしたりすることの気づきから、次に自分で考えてそこに向かっていくだとか、自分の身体能力に合った行動をすとかという様な意味合いなので、私は伝わりやすいヒヤリハット体験とは言っていますが、これが一番適切と思ってるわけでも決してないので、園長先生が言われた気持ちもよくわかりますので、何か変わる言葉があればそれはそれでというように思います。私が以前の会で言ったのはどうしてもバリアフリー的に段差のないっていうところに近年は着目しがちですけども、乳幼児にとっては段差があるとかフラットでないからこそ育っていく豊かさっていうものがあるので、そこを忘れないようにしていただきたいというような願いを込めた話であったかと思いますので、そういったところで決めていただけたらと思います。

#### 委員

度々すみません。ヒヤリハットという言葉は恐らく管理者側にある人が使う言葉。お医

者さんであるとか薬剤師であるとか学校の先生であるとか管理義務を果たさなければいけない側に啓発をする言葉なんですよ。そういう意味では、ここに乗せるのは相応しくない。他の言葉が良いんじゃないかなと思います。事務局が考えてくださると思いますが。

#### 委員長

園長先生の気持ちもよくわかります。組織を管理する者としては、リスクが減ったほうがいいんですけど、子どもの成長という事がやはり組織にとっては一番の命題なので、やはりそれとの天秤もあるんですけど、子どもが成長する事が保育士さんたちの喜びだと思いますので、この辺も含めてヒヤリハットという言葉が適切であるかも考えて文章を考えていただきたいです。ただ、園長としては大変正直な意見だと思います。それでは、他にございませんか。施設を建てるとしたら香美市の材木を使う様になると思いますので、資料には『森林資材を活かし、木の温もりが感じられる施設』とありますが、専門家の意見をお願いします。

#### 委員

木の温もりというのは目に見て温もりを感じるということもあるんですけど、やはり子どもが触れる部分ですよ、床であるとか腰掛とか。すべてが木でなくても、大体30%くらいの木分量が一番落ち着くと言われているので、あまりにも木だらけという風にはなさない方が良いんじゃないかなと思っています。やはり子どもたちが触れる部分はもちろん木を使っただけなら檜ひのきとか非常に抗菌性もありますので、いいと思います。林野庁とかのホームページを見ていただくと、揺さぶるだけでもリラックスできるという事がデータとしても出ていますので、ぜひそういった事もご父兄の皆様にも説明していただいて、木を使う事の良さとかを知っていただいて子どもたちへ活かしていただけると、さらに嬉しい気持ちになって子どもたちにも木がどこから生えてきた木かというルーツみたいな事も教えてあげられたらいいなと思います。香美の森林組合というのは何年前だったと思うんですけど、日本一の森林組合だという事で表彰もされていますし、林道も整備されてたと思いますので、安全に子どもたちを連れて行ってこの木で建てるんだよと伝えてあげると子どもたちは入る前のワクワク感、卒園しても園舎への想いというのは深まると思いますので、ぜひそういう体験をさせてあげていただきたいなと思います。今どこも地域産材を使うという事で補助金もたくさんでおりますし、そういう風に高知県では進んでいますけども、実際やるとなると木がなかなか用意できないというような事もございますので、早めに方針を決めて設計ができると、良い木っていうのは調達できますので。足らなくなって他から借りたりという事が現実にもありますので。香美市はたくさん木がありますし、整備もされておりますので良い木もあるとは思いますが、用意をする側からいいですと早め早めに欲しい木などがわかればいいと思うので、計画を早く進めていくということは大事かなと思います。基本方針を見るのも初めてなので、こういう風に決められていくんだなと思ってましたけれども、自分の目から見ると(1)の収納スペースなんかはわか

りやすい話で、異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶっていうのはこういう感じかなとか。先ほども議論されてましたけど、ヒヤリハットという言葉が仕様書に出てくると設計士はすごく迷うなと思います。安全な建物と言われる事はあっても、ヒヤリハットと言われてもどこまでやっていいんだらうかと。2階があったとして2階から飛び降りてもいいのかとか、プレゼン時のプロポーザルをする時に非常に悩ましいなという感じがします。設計士からするとあまりにも驚くような言葉なので、こういう様な要望が出されると難しすぎてどうすればと設計士が悩むので。私としては安全にばかり配慮しすぎる必要はないっていう事なのかなと。あまりにもバリアフリーであるとかではなくて、ご高齢の方もバリアフリーは推進されてなくて、やはり段差がある場所ですとか、2階へ上り下りするとか、そういった事が求められてる時代なので、子どもに関してご父兄の方も言われてましたけども、危ない事したりこけたり痛い思いをしながら成長していくので、設計士さんにあまりヒヤリハットをやらせてくださいという事を書かない方がいいんじゃないかなという風に思いました。(4)の地域の文化という事に関してもバカロレアの話も出てましたけども、どういう事が求められているのかもうちよっと具体的な言葉がないと、設計する方としては非常に迷いやすいなと思います。お気持ちはよくわかるんですけど、解釈は千差万別だと思うので、ハードに表していくというのは非常に難しいような感じがしました。建築家と呼ばれる人には才能を持っている人がいるのでそういう人たちの才能を引き出す意味ではおもしろい課題なのかなと思います。(5)子育て力を育む拠点となる施設・架け橋となる施設というのは具体的にどのような事を求められているのかを聞かないとハード面に活かすのも難しそうだなという風に思いました。(6)豊かな自然というのも良い事だとは思いますが、木が大きくなりすぎて切らないといけないという論議も出ましたので、木を植えたりとか考えられると思いますけど、樹木の選定だとか死角とかその辺の事もよく相談されるといいんだらうなと思います。

## 委員長

ありがとうございました。これはあくまで基本方針ですので、これから更に細かくしていきます。ただ、重要な観点であると思います。どういうプロポーザルをうけるかという事で仕様が相手にちゃんと理解が繋がってなかったらしようがない。それともうひとつ大事なのが、香美森林が近くにあるんだけど、香美市の材を使う事を郷土愛として子どもたちに理解をしていただきたい。それと大事なところは自然乾燥で出来れば後々丈夫なものができるんじゃないかと思うので、どれくらいのものを使うかという事もできるだけ早くしなくちゃいけないなと思います。他に何かありますか。

## 委員

ちなみに山田のなかよし保育園は物部の木を使うたよね。旧物部村の村有林を伐採して、乾燥させるのに約2年くらいかかるのでなるべく早く進めて。旧物部村の時は村有林が約200町ちょうありましたからね。台風とかいろいろあってだいぶ切ったようですけどまだまだ良いのがあるようです、物部森林組合はね。息子も香美森林組合に行っており

ますので。組合長に相談してみてもよろしいかと思ひます。

#### 副委員長

この基本方針の中に理念的なところも含めてっていうところにミックスになった関係もあって多様な意見がこれからもきつと出てくるんじゃないかなと思ひます。この件は設計プロポに使う資料というそのものにはきつとならないかもしれないというところももちろんだと思ひます。こういう思ひで保育園を建てたいっていう願ひや思ひを総括するものがこの中に入ってくると思ひます。次回事務局さんが委ねられたんですけども、文章整理をしていただく中でこれでいこうというものを確認された後、皆の総意の元実現しそうな気がします。ただ、バカロレアのこととか地域文化やそういった幅広いこれからの社会を見通してっていう部分についてはもう少しご理解をいただく時間とか資料等の提供であるとかいうところは改めて確認もいるのではないかという気がしました。土地の案については委員長さんの進行のもと合意が図られた事については価値が大きかったかなと思ひました。

#### 委員長

私の方からもうひとつ。以前から言われているICT。リスクの軽減とか映像とか。これからの時代は小中学校高校までGIGAスクールという形でパソコンやiPadを一人一台持つ時代になってきておりますので、そういうのは都会であろうが田舎であろうが活用していくべきだと思ひます。まして、次を担う子どもたちは当然のことやと思ひますので、できるだけそういう施設に対する整備を入れていただきたいなと思ひますので、よろしくお願ひします。

#### 委員

さっき言ひよった市産材ですけど、僕は物部の森林組合で林産のまとめをしています。手前に言ってもらえたら材料の確保の方はできると思ひますので。物部で足らなければ香美森林組合と連携して。新月伐採というのをやっているので、そういう事も可能なので決まったら早めに言ってもらえたら構えることはできます。

#### 委員長

ありがとうございました。保護者から専門の意見まで大変助かります。物部森林だけに頼むわけにもいきませんので、香美森林と手を携えてぜひ美良布保育園のために良い材を新月に切れれば一番良いと思ひますのでよろしくお願ひします。他にないですか。それでは、その他について事務局何かありますか。

### (3) その他

保育園の園庭の環境設定の一例について事務局より説明

委員長

ありがとうございました。実際基本方針を改めて出していただくわけなんですけど、今後どういう風な園舎を造っていくかという時に、ひとつの例としては、災害時の安全な施設というのがありますよね。美良布の地区に太陽光がいっぱいできていて、おかげでなかなか新しい所が見つからなかったわけです。実際今度建物を建てる時にエネルギー関係をどうするか、非常時のエネルギーも含めてこういう事も入ってくるわけです。そういう事も考えていかなければいけないと思いますのでその辺についてはこの事務局から出されたこういう考え方という事に関してはひとつの例ですけどよろしいですか、一つの提案として。それから私の方から最後になるわけなんですけど、位置決めは現在地で、できるだけD案の方向で考えていく事が一つですけど、その際に、支障になるのが仮園舎ですね。まず用地を見つけないといけないわけなんですけど、香北の方々であれば大体あそこあそこくらいしか無いやないだろうかというのが目に浮かぶんではないかと思えます。1年なり2年なり土地をお借りしなければいけない場合も出てくるわけで、もし個人の土地であればその交渉がうまい事いかなければまた別を当らないかと。もっと遠い所まで行かないかん可能性も出てくるという事は承知をお願いしたいと思います。時間も20時過ぎました。教育長がコロナの関係もあるので早めにとおっしゃっていましたので今日はこの辺で終わりたいと思います。次回の事について事務局の方からお願いします。

事務局

次回の開催についてですが、令和3年5月中で18時30分からを予定しております。近くなりましたら、ご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。以上です。

委員長

これで終了いたします。本日はありがとうございました。傍聴人の方もありがとうございました。